

「三宝通信」法話

浄土宗 天上山 大念寺
住職 大島 祥明



「人生において大事なものは、
いのちと時間」

大切なことは、常に手ぶらでいることです。常に心になにももたないようにしたいものです。横や後ろや下を見ないで、いつも前と上だけを見ていきたいものです。

横を見るとは、他人と比較すること。後ろを見るとは、過ぎ去ったことをいつまでも後悔すること。

下を見るとは、どうせだめだろうと悲観的になること。

人生において、なにが大事かというところ、まずはいのちですね。そして時間です。

お金は、とごとと十番目くらいになるんじゃないでしょうか。

いのちと時間とは、お金で買えません。いくら物があっても、権力があっても、やがて移ろい壊れていくものです。私たちは、壊れることのない安心を築きたいものです。

いまの社会、忙しさに追われ、なかなか立ちどまって自分を見るゆとりがありませんね。そして、みんなが不安でいます。心が不安なら、どんなところにいっても、いくらお金があっても、地位があっても、権力があっても不安のままです。安心があれば、必要最小限のものがあればいい、日々、食べていければいいという生き方になります。

人生における安心とは、なんでしょうか。

それは、私というものは死んでも無にならないう、自分という存在はありつづけるということなんです。そこがわかると、安心を得られるのではないのでしょうか。

●PHP研究所刊『死んだらおしまい、ではなかった』より。